

の新时期溶岩流が薄茶色の旧期溶岩流に覆い被さるようにし、さらに新旧それぞれの溶岩名が分かるよう記号（鐘子山溶岩：Kan など）で表記している。

5. 2 側火山

溶岩流と同様に約 2200 年前を基準に新时期・旧期に区分し、溶岩地形の中でも比高があることから浮き上がって目立つように赤系の色で表現した。また、新时期スコリア丘（マゼンタ）からは、新时期溶岩流（橙色）が流出するイメージで表現している。

5. 3 岩屑なだれと泥流

岩屑なだれ堆積地と泥流堆積地をイメージできるようにそれぞれ紫色に三角（岩）と円点（泥）の付加記号で表記し、流れ山は付加記号のない濃い紫で表現。

5. 4 火山麓扇状地

古い上井出扇状地の上に新しい大沢扇状地を形成しているのが視覚で分かるように、古い扇状地（薄い黄色）の上に、新しい扇状地（濃い黄色）が覆い被さるイメージとし、さらに砂礫をイメージした円点の付加記号で表現した。

5. 5 雪代

水色に円点の付加記号により、雪崩とともに火山砕屑物が流れ下るイメージで表現した。

6. 富士山の有史以降の活動と災害

小山（1998a, 1998b）は、有史以降の火山活動について、表－2 のとおりまとめた。

天応元年（781 年）以降の火山活動がイベントとしてリストアップされ、この中で著名な火山活動としては、延暦噴火（800～802 年）、貞観噴火（864～866 年）、宝永噴火（1707 年）が歴史時代の三大噴火とみなされてきた。貞観噴火と宝永噴火の概要は以下のとおりである。

6. 1 貞観噴火

平安時代の 864（貞観 6）年に起きた貞観噴火は、「下り山ー石塚火口列」と「長尾山ー氷穴火口列」の 2 つの割れ目火口から青木ヶ原溶岩が流出し、当時あった「割の海」を埋め立て、現在の富士五湖のうちの精進湖と西湖を作った有名な噴火である。小山（2002b）によると貞観噴火の溶岩流が割の海を埋め富士五湖を作る過程は図－9 のとおりである。貞観噴火は歴史時代に起きた富士山の火山噴火記録の中でも最大級の溶岩流出とされている。



図－9 貞観噴火の溶岩流が割の海を埋め富士五湖を作る過程（小山 2002b）

表－2 有史以降の富士山の火山活動（小山, 1998a/1998b）

年 代	現 象	記 事
781	天応元年六～七月	噴火 降灰
800-802	延暦十九年三月～二十一年正月	噴火 西小富士噴火割れ目からの噴火。東海道が「足柄路」から「箱根路」に移る。
864-866	貞観六年五月～貞観七年末	噴火 青木ヶ原溶岩流が割の海に流入し富士五湖のうち3湖がほぼ現在の形になった。
937	承平七年十一月	噴火 溶岩流が湖を埋めた。剣丸尾第1溶岩。
999	長保元年二月または三月	噴火 噴火の記録
1033	長元五年十二月	噴火 山体の上部から流出した溶岩が山麓まで達した。剣丸尾第2溶岩または焼野溶岩か。
1083	永保三年三月	噴火 爆発的噴火。富士山東～南麓か。
1435 又は 1436	永享七年	噴火 火炎見える
1511	永正八年八月	噴火 カマ岩（富士吉田口登山道六合目付近）燃える
1704	元禄十六年十二月～元禄十七年正月	鳴動 4日間鳴動する
1707	宝永四年十一月～十二月	噴火 大規模な爆発的噴火。宝永火口（3つ）残る。
1825	文政八年六月	噴煙、鳴動 噴煙、鳴動